

ハシブトガラスとイエネコによるニホンイシガメ卵の食害

楠田哲士¹・原口句美²・加古智哉¹

¹ 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部動物繁殖学研究室

² 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部附属野生動物管理学研究センター

Feeding damage of Japanese pond turtle eggs by jungle crow and cat

By Satoshi KUSUDA¹, Kumi HARAGUCHI² and Tomoya KAKO¹

¹ Laboratory of Animal Reproduction, ² Research Center for Wildlife Management,

Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan

日本固有のニホンイシガメは、ペット商取引目的での大量捕獲、生息環境の減少や悪化、外来生物のアライグマによる捕食やクサガメとの交雑等により、絶滅の恐れが高まっているとして、環境省の最新版レッドリスト(2012年)において初めて準絶滅危惧(以前は情報不足)種に指定された(環境省, 2012)。岐阜県版(2009年)でも準絶滅危惧に指定されている(岐阜県, 2010)。岐阜市内全域の調査結果(平成21~23年のデータ, 岐阜市自然環境基礎調査)が市によってまとめられているが、それと比較しても、特に岐阜大学地区および周辺域はミシシippアカミミガメやクサガメが多く、ニホンイシガメがほとんど見られない状況である。このような状況から、岐阜大学構内にニホンイシガメの保護増殖池「淡水生物園」を造成し(楠田他, 2013)、2010~2013年に大学地区で捕獲したニホンイシガメ(図1)を創始個体として、保護増殖の試みを行っている。

園内では2011~2013年に毎年孵化直後と思われる幼体や産卵巣が発見されている(いずれも産卵日は不明)。2011年は9月6日に初めて5

匹の幼体を発見し、この年は計8匹(1クラッチ)を発見した。2012年は、9月6日に3匹と7日に1匹の計4匹、6日には産卵巣1ヶ所を発見しており(図2)、巣内からは孵化後卵殻8個が見つかった。

2013年は多数の個体が産卵し、産卵巣の場所(発見は5ヶ所)や巣外の卵の発見位置等から判断して8クラッチ分程度と考えられた(うち1ヶ所からは孵化後卵殻9個を発見(図2))。産卵数は多かったものの、水中産卵も含まれ、また卵の食害、大雨による産卵巣の流出、取扱い時の人為的ミスなどがあり、最終的な孵化幼体数(発見数)は12匹に留まった。2013年の最初の幼体発見は9月9日の5匹で、その後11日に

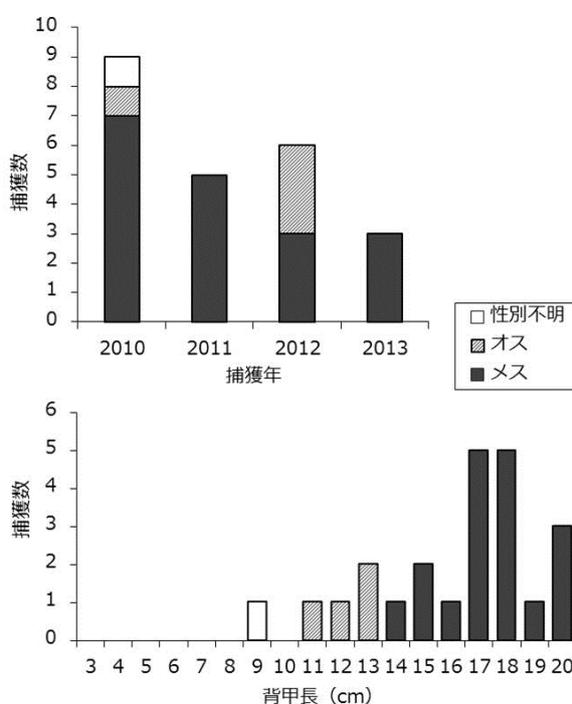


図1. 岐阜大学地区でのニホンイシガメの年別捕獲数(上)と背甲長別捕獲数(下)

2010年8月~2013年10月までの約3年間のカメの総捕獲数1281匹(再捕獲除く)のうち、ニホンイシガメは23匹(1.8%)であった。

3匹, 10月8日, 22日, 30日, 11月1日に各1匹の計12匹を発見した。孵化直後と思われる幼体の発見時期が3年間とも9月で, それぞれ6日, 6日, 9日と非常に近接していたことから, 淡水生物園での産卵日や孵化日は毎年ほぼ同じであることが推察された。

2013年は卵の食害被害が目立ち, 7月7日に2ヶ所の産卵巣が掘り返され, それぞれの産卵巣周辺には6個と2個の割られた卵が散乱していた(図3)。散乱していた卵は, 破れたように卵殻が割れていたものと, 何かで刺したような小さい穴が空いているものがあった。岐阜大学構内では, 中型哺乳類はイエネコ, イタチ, テン, タヌキ, キツネ, ヌートリア等が確認されている。また, 淡水生物園には日常的にハシブトガラスが見られ, 池で水浴しているところが目撃されていた。淡水生物園横の構内河川では, アオサギ, ダイサギ, コサギの姿も見られ, 過去には園内にコサギがいるところも目撃されていた。食害のあった7月7日の後, 7月9日~9月27日までセンサーカメラを2台設置して監視した。撮影された画像を確認した結果, 主に夜間にイエネコ(模様



図2. ニホンイシガメの産卵巣と孵化直後幼体の発見場所。

下の写真は, 発見した産卵巣から取り出した孵化後卵殻9個(2013年)。



図3 掘り返されたニホンイシガメの産卵巣と散乱する卵

破れたように割られた卵(上)と何かで刺したような小さな穴が開いていた卵(下)が産卵巣付近に散乱していた。食害のあった産卵場は図2とは異なる場所である。矢印は産卵巣, 矢頭は割られた卵を示す。

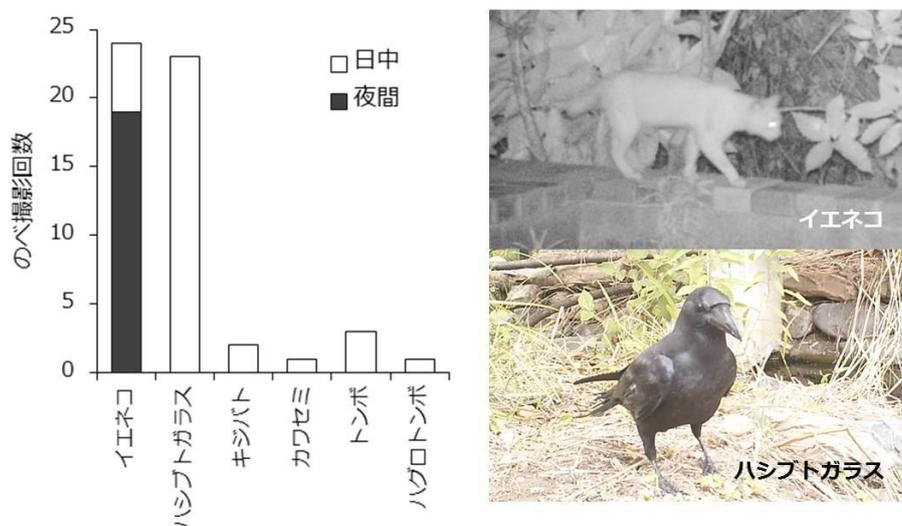


図4. 淡水生物園内に設置したセンサーカメラ2台で撮影された生物(2013年7月9日～9月27日)

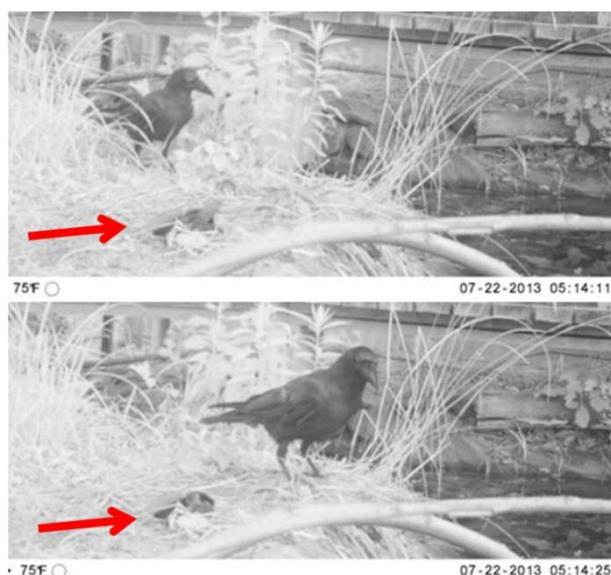


図5. ニホンイシガメの背後に立つハシブトガラス

矢印は、産卵場にいるニホンイシガメで、穴掘り行動中または産卵中と思われる。

から判断して少なくとも2頭), 日中はハシブトガラスが頻繁に出入りしていることが判明した(図4). さらに, 産卵場にいるニホンイシガメの背後に立つハシブトガラスの様子が写されていた(図5). 食害中の様子を撮影するには至らなかったが, これらの状況から, ハシブトガラスとイエネコによる食害であったと考えられた.

引用文献

- 岐阜県. 2010. 岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物(動物編)改訂版—岐阜県レッドデータブック(動物編)改訂版—. <http://www.pref.gifu.lg.jp/kankyo/shizen/red-data-dobutsu/>
- 環境省. 2012. 第4次レッドリストの公表について. <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=15619>
- 楠田哲士・安積修平・加古智哉・宮元彩希・古橋美穂・吉川晶子. 2013. ニホンイシガメの保全池「淡水生物園」の活動. 亀楽6:4-7.